



ワムタウン広場

WAM Town Open Space !

発行 一般社団法人ワムタウン推進本部
〒359-1131 埼玉県所沢市大字久米554番地2
TEL 04-2941-3640 FAX 04-2941-3641
http://www.wam-town.jp/ E-mail:koho@tl-wam.or.jp

協力 医療法人啓仁会
医療法人昭仁会
社会福祉法人栄光会

WAM TOWN

11月

第122号 2020年/令和2年11月1日(日)

新型コロナと人類の連携

元・MSSグループ顧問 汪 鴻祥



元・MSSグループ顧問 汪 鴻祥

新型コロナウイルスは、世界中で猛威を振る舞い、あらゆる分野で人類に深刻な影響をもたらしました。9月28日迄、世界全体で確認された新型コロナ感染者数は3200万人を超え、死亡者数は100万人近いということです。

新型コロナウイルス感染の急拡大は、医療体制や社会のセーフティネットなどの脆弱性を露呈させ、一番弱いところに被害や痛みをもたらしました。特に医療現場では危機的な状況に置かれ、関係の医療従事者の方々は医療第一線で大変苦勞されています。私は1990年代にMSSグループの顧問に就任し、矢吹甚吾理事長から大変お世話になりました。当時、医療現場の状況を拝見したことがあるので、医療従事者の皆様に敬意を持っております。

実は、感染症の発生と急速かつ広範囲な蔓延は、すでに何年も前から科学者などから警鐘がならされてきました。それに対する準備を怠っていました。地球を席捲するコロナのパンデミックは、私達人類に改革を迫っています。今後の人類社会を新しい視点で考えなければなりません。

新型コロナウイルス感染の急拡大は、

グローバル化によって引き起こされたとの指摘があります。予想よりも速くウイルスが伝染していることは、いかにグローバル化で人の交流が激しくなったかを示しています。グローバル化の問題点を感じましたが、だからといって逆行するのは難しいです。今の社会は、人、モノ、情報の移動がグローバル化しなければ立ち行きません。豊かさや幸福がグローバル化に関連している以上、グローバル化の流れは止まらないでしょう。

コロナ問題は、一国レベルで解決するのは不可能であり、今回ほど極めて切迫した状態で人類レベルの連帯が必要になったことはありません。一国だけが感染を封じ込めたとしても、別の国で広がっていれば解決には至りません。自分たちさえ良ければいいという「一国主義」的な考えは、もはや通用しません。他者が良くならなければ、結局、自分のところに返ってきます。人類社会全体が結束し、そして、グローバルに協調して戦わないと打ち勝つことはできません。そのためには、他者への意識と行動こそが大切になってくると思います。

今、これと正反対の動きが目の前で起きています。国際社会では、国同士の対立が激しく、「自国ファースト主義」が世界の標準になりつつあります。ある国が自国ファーストで動き始めますと、それ以外の国も同様の原理で動かざるを得ません。そもそも感染症以外にも、重要な問題の多くは、国家が解決の足を引っ張っていると言っています。自国にとって有利な選択が世界全体で問題をより深刻にしています。

一国主義の弊害を乗り越えるために、国際機関の役割を果たさなければなりません。国連もWHO(世界保健機関)も国際協調のための組織で国家より権

限は弱いのです。国家が自発的に参加しているだけです。その結果、国同士の駆け引きの場になってしまいました。新型コロナの対応に国際協力の体制づくりはとても重要です。

危機の時代を乗り越えるために、意識改革の大切さを痛感しています。ある哲人が指摘されたように、「『国家中心』から『人間中心』へ、そして、『世界は一つ』と考えていくべき時がすでにきているはずだ。そのために必要なのは、人間の多様性を尊重し、調和と融合を図り、人類を結び合う生命の哲学だ」。

今、人類は分かれ道にあります。何年先かは分かりませんが、後に振り返って2020年のコロナ問題が“人類の連帯”を考えた新しい出発点だったとならない限り、将来、人類が繁栄していく可能性は低いではありませんか。人類の連帯は人類社会発展の唯一正しい道だと確信しております。

これから新しい時代を創造し、新しい社会を構築していく主役は若者です。私は日中両国の大学で40年以上教鞭を取ってきましたが、青年たちの若いパワーをよく感じております。大人世代は若者を対等のパートナーとして、若者と共に縦横無尽に連携しながら、新しく変えていく努力をし、ポスト・コロナ時代に新しい価値創造を図っていかねばなりません。

2020年9月28日東京八王子に於いて

作者略歴：元・MSSグループ顧問

中国復旦大学大学院卒、平成元年来日、東京大学客員研究員、慶応義塾大学兼任講師、創価大学教授など歴任。現在、創価大学客員教授、復旦大学日本研究センター兼任研究員など

国際関係専門、編著書10部、論文40篇

外国人介護職員が現場で活躍しています！

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 平成の森 (埼玉県川島町)

近年、厚生労働省の主導で、日本国内の職場環境に外国人人材を受け入れる仕組みが始まっています。これは、日本の技能・技術などを開発途上の国へ伝え、経済発展を担う「人づくり」に協力することや、日本国内での人員不足を解消することを目的としています。

その職種の中には介護職も含まれていたため、ロイヤル・ワム・タウングループでは、いち早く制度を採り入れ、現在では複数の施設で多くの外国人職員が介護部門で働いています。今回はそのうち、啓仁会の老健平成の森の様子を紹介いたします。

外国人介護職員採用プログラムについて

事務長 入村 郁夫

当施設では2017年よりインドネシア本国の学校と連携して日本で介護福祉士を志望する人を人選し、日本語学校に1年、介護福祉士養成校に2年(学生の内は実習を兼ねてアルバイト)、介護福祉士資格取得後5年間施設勤務と言う8年間のプログラムを実践してきました。2020年4月には第一期生となる3名が介護福祉士資格を取得し常勤として勤務を開始することが出来ました。また、このプログラムは民間プログラムの成功事例として9月22日の朝日新聞朝刊に掲載されました。

また先日、勤務をする彼らの元に当法人の矢吹理事長の訪問がありました。理事長は日本での生活、仕事や宗教等について熱心に話を聞かれ、今後の業務について激励をくださいました。インドネシア人介護福祉士たちは激励を受け少し緊張した面持ちでしたが、面談後に撮影した写真を記念に本国の家族へ送りたいと大変喜び、これからの日本での介護業務に意欲を新たにしています。

理事長からは、他法人の動向や外国人介護職員採用の必要性、長期計画に基づいた採用の重要性についてお話もありましたが、現在介護福祉士養成校に4名、日本語学校に2名の留学生がプログラムに乗っており、他に特定技能2名が次年度より就業する予定となっ

ております。今後も複数の制度を活用し計画的・継続的に外国人介護職員を採用する予定です。

こうして現在、介護福祉士として働く3名の第一期生の、常勤として勤務しての感想は以下の通りです。

【ウルルさん】



勤務の様子 (ウルルさん)

私は現在、介護老人保健施設平成の森で仕事をしています。いろんな方に出会い、多くの経験もさせてもらっています。2018年にアルバイトとして週末に仕事をしていますが、その日が楽しみでした。もともと子供やお年寄りが大好きで、仕事をするときにも心から笑顔が出ます。日本語が時々問題になってわからないこともたくさんありますが利用者様や職員さんにも理解してもらえるように、これからは勉強していきたいと思います。できないことはありませんので、やる気があれば道が広がっていくと私は信じています。

【タントリさん】



勤務の様子 (タントリさん)

入職してから6ヶ月たちます。もともと学校へ通いながら2年間、土曜日に平成の森でアルバイトをしていました。学校を卒業して平成の森に就職しました。現在は正社員になって現場で働いて最初の方は大変だと思いましたが少しずつ慣れてきました。認知症フロアで業務して、様々な利用者様の認知症の状態も違って、それで自分の責任をもって一人一人利用者様のケア対応ができるように、利用者様の尊厳と人権を大切に、自分のできることから利用者様に納得していただくような介護を目指していきたいと思っています。自分でも楽しみながら介護の仕事をしていきたい。それで職員の方と一緒にチームワークで頑張っていこうと思います。よろしくお願いします。

【ブディアントさん】



勤務の様子 (ブディアントさん)

平成の森で働いてとても良かったです。ここに来るまで介護の経験がなくて、介護のこともまだよくわかりませんでした。でも、みんなが温かく受け入れてくれました。ここで働いて日本人のスタッフから優しくいろんなこと教えてもらいました。日本語が分からなくても分かるまで簡単に細かく教えてくれました。最初からみんな私を信じてくれて嬉しかったです。

施設長・総師長は、外国人を職員に迎えるにあたって、次のような考えや、サポートの仕組み・展望も持っています。



理事長(左)が激励に来訪しました



【外国人の雇用の早期対応】

施設長 塚田 俊彦

当施設は、都心から一番近い田園地帯と言われる埼玉県のはぼ中央、比企郡川島町にあります。川島町は人口約2万人、高齢化率約30%の地域であり、圏央道川島ICの開設に伴い周辺には商業施設や輸送倉庫が並び雇用が創設されました。労働者の確保は町内各事業所の大きな課題であり、特に介護職員の確保は困難な状況であります。

2025年には245万人の介護職員が必要となり、34万人が不足すると予想されている中、人材を国内だけに求めるのは不可能であり、国外へもチャンネルを広げて行くことは避けられない状況です。現在人材不足への対応として、国では下記4つの制度があります。

- 1 EPA(二国間経済連携強化)
 - 2 在留資格介護(専門的・技術的分野の受入れ) 2017年9月
 - 3 技能実習(本国への技術移転) 2017年11月
 - 4 特定技能1号(人材不足対応の外国人受入れ) 2019年4月
- 途上国支援や人材不足対応等、目的は様々

ですが、各制度を活用し早期より外国人介護職員採用の必要性を実感しております。

【外国人介護職員の雇用について】

総師長 林 晴美

介護人材不足への対応として2017年より、外国人介護職雇用について検討を進めておりました。2018年4月、支援機関からの紹介にて4名の留学生(インドネシア)が非常勤として入職、2020年4月、内3名が福祉専門学校を卒業し、常勤として勤務を開始しました。

外国人介護職員の受け入れに当たり、まず介護職員によるサポートチームを立ち上げ、生活や仕事面の支援することになりました。インドネシアは、私たちにとってあまり馴染みがない国であり、言語や宗教・文化も大きく異なります。そのため、日本語がどのくらい通じるのか、宗教的な制約にどう対応してよいか、職員は戸惑いました。しかし、初めて会った時、言葉の壁があまりないことに驚きました。彼らの日本語レベルは、日常会話であれば殆ど問題なく、漢字も書けました。支援機関から、インドネシア人との付き合い方等のアドバイスもあり、気負わず日本人と

同様にプリセプター制度を用いてサポートを開始しました。彼らは、ひとりの新人介護職員として、自然と周囲に馴染んでいき、利用者の多くは「どこから来たの?遠くからきて、頑張っているんだね。凄いね。」と笑顔で激励、彼らの素直で、礼儀正しく真面目な人柄が信頼を深めていきました。

その後、2019年4名、2020年2名のインドネシア留学生が加わり、非常勤職員として勤務しています。職員も試行錯誤を繰り返し、サポート体制は整備されつつあります。そして、今年常勤となった外国人介護福祉士1名がサポートメンバーに加わり、現在は後輩のサポートを担当しています。それにより日本人が話してもニュアンスの違い等により伝わらない細かな事も周知出来、円滑なサポートが可能となりました。

今後の介護職の人材不足に対応するため、外国人介護職の雇用は必須と考えます。医療・福祉の動向をみながら、5年後、10年後を見据え、外国人介護職の雇用を進めてまいりたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に対する当院の取り組みについて

医療法人啓仁会 所沢ロイヤル病院 (埼玉県所沢市) 総務課長 藤森 志穂

本紙7月号のとおり、当院では4月から5月にかけて新型コロナウイルス感染症が発生し、病院の運営に大きな影響を受けました。職員の懸命な努力はもとより、多方面から温かいご支援・ご助力をいただき、幸いにも約1か月後には収束いたしました。その経験からいっそうの新型コロナウイルス感染症予防に取り組んでいます。

先日、感染防止対策を徹底しているとして日本医師会より「みんなで安心マーク」を取得しました。当院の対策の一例をご紹介します。

1. 職員・来院者の検温等

正面入り口および職員通用口に発熱外来スクリーニングシステムを設置しました。サーマルカメラで自動的に来院者を検温し管理できます。体温が基準値より高く表示された場合は、非接触型体温計による検温および問診をすることがあります。

職員は毎日の出退勤時に検温し、熱がなくても、体調不良のときは自宅療養を指示しています。



体温を自動検知、マスクの有無も判別します

2. 手指消毒・マスク着用の徹底、ソーシャルディスタンス

当院では外来診療の3密を避けるため、外来待合室やロビーでの会計待ちの際に席を空けてお持ちいただいています。

また、院内各所および各室の出入口に手指消毒液を配置し、職員・来院者は必ずマスクを着けます。マスクを着けていない方には、ロビーのマスク自動販売機や院内売店での購入をお願いしています。

3. 病室にパーテーションを設置

一部の病室にパーテーションを取り付けて半個室化しました。感染予防だけでなく、プライバシーも守れます。

4. 飛沫防止対策

受付カウンターや地域連携部の相談室に飛沫防止のためのアクリル板を設置しました。

口腔体操や発声練習などマスクを外す必要のある言語療法の場面では、透明なアクリル板に加えフェイスシールドを使用しています。

職員食堂のテーブルにもアクリル板を設け、職員間の感染にも注意を払います。



病室のパーテーション、採光も良好です



病棟内に面会ブースを設置

5. 面会制限対策

外部からの感染を防止するため面会を制限させていただいておりますが、やはりご家族やご友人からの「顔を見たい」「話をしたい」というご希望は多く、患者様も会うのを楽しみにしていらっしゃいます。

そこで、これまで取り組んでいたZoomやLINEによるオンライン面会や病棟入口での面会に加え、リハビリの見学、病棟内面会など直接患者様と会える機会を設けたところ、多くのお問い合わせをいただいております。

埼玉県では10月5日~11日の1週間で、1日当たり平均約40人の新規感染者数が出ています。また世界的に見ても、新規感染者数は毎日30万人前後と、まだまだ収束の見通しは立っていないようです。

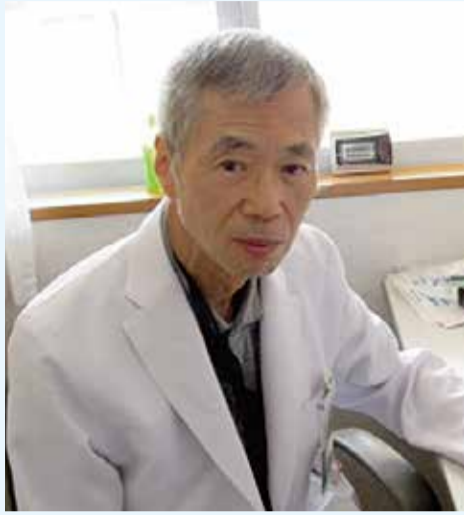
この冬に懸念される新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えて、引き続き体制を整えていきたいと思っております。



みんなで安心マーク

着任(新任)後のご挨拶

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 所沢ロイヤルの丘 (埼玉県所沢市) 施設長 秋本 芳太郎



施設長 秋本 芳太郎

前任の鷲塚施設長退任後 2020年(令和2年)7月1日より施設長を拝命致しました秋本芳太郎です。

かなりの年配の着任ですが気力、体力の許す限り頑張りたいと思っています。

施設長職は介護施設全体を見つめながら介護療養と施設の運営に努めなければならないと思うのですが3ヶ月立ってもまだまだ未熟で自分自身の仕事のことで精一杯です。しかし施設スタッフは優秀な人々ですので何とか業務をこなしていけるのではないかと考えています。

約13年間の鷲塚先生の業績を踏みしめながら地域介護に努めていきたいと思っています。

入所者様の気持ち、家庭環境、地域の特性等を考慮した入所の方々中心の介護の実践を目標に日々精進したいと思っています。

万が一の看取りに対しても家族や取り巻く人々が満足いくような介護を目指したいと思っています。それには家族面談時、納得されるまで話し合うこともその一つの道ではないかと考えています。

地域の連携や他職種の連携にも努めていきたいものです。地域の方々喜んで利用できる介護老人保健施設を目指したいと思っています。

介護老人保健施設「所沢ロイヤルの丘」のご利用をお願いします。

夕涼み花火大会

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 いたうの杜 (静岡県伊東市) 介護職員 渡部 貴之

今年は新型コロナウイルスの影響により、外出や外泊など、様々なことにおいて自粛せ



工夫して撮影したアーティスティックな作品です

ざるを得ない状況となり、利用者様におかれましては息苦しい日々が続いております。



夜風が気持ち良く楽しいひと時になりました

そんな中、4Fの長期入所サービスでは、夕涼みのお散歩も兼ねて9月16日に花火大会を実施しました。

まずは手持ち花火をスタッフと共にしっかりと握り

ながら鮮やかな色彩の変化を楽しみました。何年ぶりに花火をされた利用者様も多くいたため、大変感激してありました。最後に小型の打ち上げ花火も行い、子どもの頃の思い出を話し始める方もいらっしゃいました。短い時間ではございましたが、新しい思い出づくりのお手伝いが出来たのではないのでしょうか。

今後ともコロナに負けず、皆様が健やかにお過ごされれますようスタッフ一同、健康管理に努めて参ります。

なかとみロイヤルの園・華道の時間

社会福祉法人栄光会 デイサービスセンター なかとみロイヤルの園 (埼玉県所沢市) 生活相談員 木村 愛

秋も深まり、めっきり日脚も短くなってまいりました。ワムタウン広場をご覧の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。デイサービスセンターなかとみロイヤルの園では、毎月第2金曜日に華道を行っております。

当日、お花屋さんに季節の花を届けて頂き、ご利用者の皆さんが自由に高さやバランスを考え、ご自身で選んだ花器に生けて頂いております。華道は色とりどりの花が視覚を刺激し、花の香りが嗅覚を刺激する事で心を落ち着かせ、バランスや高さ、色彩などを考えながら生ける事で頭の運動にもなるそうです。

当センターでは茎を切るなど力が必要な作業は職員がお手伝いし、出来るだけご自身

で完成させて頂けるよう、お声掛けしながら行っております。同じ花材を使っても人によって異なった作品になるのも華道のひとつの魅力です。華道にはいろいろな流派がありますが、当センターでは「ご自分で思うように行ってください」という形にしております。華道経験のあるご利用者にアドバイスを頂いたりしながら、自由に生けて頂いております。華道を実施して印象的だったのは、女性のご利用者だけでなく、男性のご利用者も笑顔で参加され真剣に取り組まれていることでした。生け終わった後、参加された皆さんがお

互いの作品を鑑賞され楽しまれており、会話が弾んでいます。お花については、ご自宅にお持ち帰り頂いて、ご自宅でも楽しんで頂けるようにしています。送迎の際、お宅に伺うと玄関に飾ってあり「家に咲いている花を足してみたの」「まだ、きれいに咲いているよ」と見せてくださるご利用者もいらっしゃいます。今回はリンドウやトルコキキョウ、ホトギスなどの早秋の草花でした。

毎月、お花を通して、四季の移り変わりを体感しながら職員もご利用者の皆さんと一緒に楽しんでおります。



早秋の花3種



真剣に花と向き合います



完成しました！！